授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!

西部の社会科の未来へバトンをつなぐ

令和5年1月発行
西部教育事務所

社会科授業づくり講座
四万十市立中村中学校

西部管内の講座関係ＨＰ

教材研究会 令和4年 10 月 12 日（水）

【単　元】歴史的分野 B(2)中世の日本　「武家政治の成立とユーラシアの交流」
【授業者】中前　亮祐　教諭

単元を貫く問い（教材研究会時）：武士を中心とする社会は、どのように作られていっただろうか

本時のめあて：承久の乱は、朝廷と幕府の関係をどのように変化させただろう

協議の視点

子どもが主体的に取り組める単元構想になっているか

単元計画

社会科的活動

- 課題を把握し、解決すべき課題を設定して、課題を追究したり解決したりする　活動
- 諸資料から必要な情報を適切に選択し、有効に活用し、歴史に関わる事象を結び付けながら、まとめる　活動
- 意見交流や情報交換を通して、多面的・多角的に考察し、表現する　活動

課題把握　／　課　題　追　究　／　課題解決

社会科的活動を繰り返しながら、様々な角度から社会的事象を捉え、いろいろな立場にたって、思考・判断し、表現する。

「単元を貫く問い」と各時間の「問い」の関連性

課題把握

する。〉

①武士の誕生

（めあて）武士はどのようにしておこったのだろう

○小学校の学習と関連させて、武士のイメージや役割、貴族との関係性等について、共有する。

○生徒の疑問や言葉から「単元を貫く問い」（課題把握）を設定する。

②平氏政権

（めあて）武士で初めて政権を握った平氏はどのような政治を行っただろう

○平清盛の政治と摂関政治、院政を比較し共通点や武士・貴族・上皇の考えや立場を思考する。

課題追究

（めあて）源氏はどのような政治をめざしたのだろう

○鎌倉幕府の場所、しくみ、御恩と奉公の関係などを基に、武家政権の成立を理解する。

○天皇や貴族の政治と比較し、その違いに気づく。

②武家政権の支配の広まり

（めあて）承久の乱は、朝廷と幕府の関係をどのように変化させただろう

○資料をもとに承久の乱での武士の動きや承久の乱後の幕府の影響に着目して、武家政権が拡大したことを思考し、説明する。

③鎌倉時代の人々の暮らし

（めあて）武士と農民はどのように関わり合い、生活していただろう

○資料をもとに小学校の既習内容と関連させ、武士の暮らしや農民の暮らしの発展に着目して、武士と農民の関係について思考し、説明する。

④鎌倉文化

（めあて）鎌倉文化を平安時代の文化と比較して、武士の文化の特色をとらえよう

○図や写真等の資料を活用して、武士の文化の特色を考察し、表現する。

○新しい仏教が、人々の間に広まっていったことを理解する。

【2時間】

<元寇が国内に及ぼした影響などに気づかせるとともに、モンゴル帝国の拡大によるユーラシアの結び付きや東西の貿易や文化の交流など世界の動きを捉える。>

①13世紀ころのユーラシアの動き

（めあて）モンゴル帝国の出現は、世界にどのような影響を与えただろう

○元と、東アジアやヨーロッパ、イスラム世界との関係について思考する。

②元寇と鎌倉幕府の滅亡

（めあて）元軍の襲来は、日本にどのような影響を与えただろうか

○幕府が衰えていった原因について、幕府と御家人たちとの関係に着目して思考する。

課題解決

【1時間】
単元のまとめ
学習の振り返り

<単元を貫く問いについてまとめる。>

（めあて）はじめて成立した幕府は、この後の時代にどのような意味をもっただろう

○武士が政権を担うようになった歴史の中で、「キーワード」を基に出来事や原因・理由、影響などを思考し、説明する。

○これまでの歴史的事象や小学校の既習内容と関連づけて、これからの政治の動きにつなげていく。

歴史的な見方・考え方

- 時期、年代など時系列に関わる視点、諸事象の推移に関わる視点、類似、差異、特色など諸事象の比較に関わる視点、事象相互のつながりに関わる視点などに着目して、比較したり、関連させたりして、多面的・多角的に考察している。
- 時代の転換の様子や各時代の特色を考察している。
- 歴史に見られる諸課題について複数の立場や意見を踏まえて選択・判断している。

ポイント①

【社会科の学習過程に沿った学習活動の設定】

社会科の学習過程である「課題把握」「課題追究」「課題解決」で単元を構想し、各学習過程に沿った学習活動を設定することによって、生徒は見通しを持ちながら、主体的に学習を進めることができます。そして、課題を追究したり解決したりする活動を通して、社会科で付けたい資質・能力の育成を図っていくことが大切です。

ポイント②

【学習過程において働かせる見方・考え方】

生徒が歴史的事象に対して見方・考え方を働かせて課題解決する姿を**具体的にイメージ**することで、どの場面で、どのような見方・考え方を働かせて考察させるのかが明確になり、生徒の意識化につながります。課題に応じて見方・考え方を繰り返し働かせながら考察していくことで、より深い理解につながり、概念化された知識や汎用的な知識へとつながります。

協議

◇単元構想から元寇を省き、鎌倉文化までで構成してみてはどうだろうか。
◇「武士の政治が始まったのはいつからだろうか」という問いを立てると、生徒は様々な視点からの思考ができるのではないか。
◇これまでの時代と武士の時代の相違点（政治・文化・服装・生活など）を比較するのに必要な資料を、生徒自ら求めることができるような工夫がしたい。

参加者の　声

○主体的に学ぶことができるような授業にするための単元構想の重要性を改めて確認できた。既習事項の活用、見方・考え方をはっきり示すことや、比較・関連付けて考えさせること等、授業づくりの根本を考えることができた。

授業研究会　令和４年 11 月 17 日（木）

単元を貫く問い　武士を中心とする社会は、どのように作られていっただろうか

本時のめあて　承久の乱によって、朝廷と幕府の関係はどのように変わったのだろう

教材研究会を受けての改善

〇本単元で育成する資質・能力を再度確認し、単元ゴールの生徒の姿を改善
〇育成する資質・能力の見直し（三本柱の焦点化・精選・構造化を図る）
〇単元構成の見直し（本単元のまとまりを「元寇」以前までとする）
　※古代からの社会の様子の変化を捉え、どのようにして武士が力を付け、武家社会の成立に至ったのかという課題を追究する。

「承久の乱」以前の
権力構造図
どのように変化するのか？

矢印の大きさや向き、名称の位置・範囲を工夫して権力構造の変化を表しています。

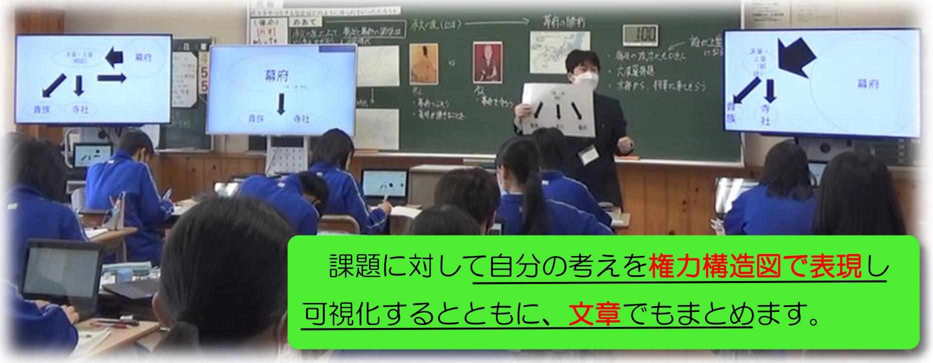
本時の展開

既習の活用

ポイントとなる着眼点：承久の乱前後の「**朝廷と幕府の関係**」
〇既習事項を基に朝廷と幕府の関係を振り返る
〇課題に対する仮説を立てる
〇資料を基に課題追究
〇意見の共有・深化
〇まとめ、振り返り
※課題追究の視点を明示することにより、生徒が考察のポイントを意識化することができ、社会的事象の意味的理解につながります。

比較・関連付け

多面的・多角的な考察



課題に対して自分の考えを権力構造図で表現し可視化するとともに、文章でもまとめます。

井上昌善先生（愛媛大学准教授）の講話より

井上先生、２回に渡るご助言ありがとうございました！

【本時の授業について】

◇「承久の乱」という時代の画期となった出来事を取り上げ、社会の変化について朝廷と幕府の関係に着目して考察するものとなっており、教材研究会時からの改善が見られた。
〇子供への「問い」の投げかけ
・結果が分かっている出来事について、勝敗予測とその理由を問えば子供は混乱する。→（因果関係の考察の必要性）
・課題に対してやるべきことを明確に示すことで、子供達は迷わず課題追究へと向かうことができる。
〇深い学びにつなげる「承久の乱」の取り扱い方について
・多くの武士が北条氏の呼びかけに応じたのはどうしてかを追究してみる。

【これからの社会科授業づくり】

◇社会科の役割には、主権者としての公民育成を目指すことが挙げられる。子供一人ひとりの見方や生き方を尊重し、自己の考えを表現させることを重視し、公的な問題について考え、公正に判断することのできる資質・能力を育成することが重要である。
（授業づくりの視点と方法）
①目標：社会の創り手となる主権者の育成
②内容：社会問題や課題
③方法：協働的な議論の場を設定
④評価：子供との共創

参加者の声

〇基礎的な知識の定着の上に、教師による学びの方向性の提示によって生徒の力を伸ばしていくことの重要性を再確認させていただきました。資料の精選、問いの具体化に注意し、授業改善を図っていきたいと思います。